

あおもり漁連

代表理事会長 植村正治 書

資源有限 漁業無限

No.
151



青森県漁連創立60周年記念碑除幕式

CONTENTS

県内系統・関係機関・年頭ごあいさつ	1	平成21年度漁協運動功労者	17
全国系統団体・新年ごあいさつ	7	全国漁業協同組合学校(学生募集)	17
青森県漁連創立60周年記念式典	11	青森はたてキャラバン隊・出前講座	18
青森県豊かな海づくり大会	13	第37回「海をきれいにする運動」入賞作品紹介	19
JF全国代表者集会	15	水産に関する主な動き(8月～12月)	22
大型クラゲ出現・被害状況と対応・対策	16		

2010 1

21世紀は漁村の時代

平成二十二年 県内系統・関係機関 年頭ごあいさつ



青森県漁業協同組合連合会

代表理事会長 植村正治

平成二十二年の新春を迎え、漁業者の皆様そして漁協役職員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、世界的な経済不況は今なお続いており、わが国においても多くの業界が経営難に苦しんでいるところであります。

昨年の本県漁業の情勢を振り返りますと、スルメイカが太平洋海域で好漁となり、ホタテ貝が過去にない高成長となりました。しかし、それにも増して、大型クラゲが予想をはるかに超え大量に来襲し、定置網や底建網等の漁業者に甚大な被害をもたらし、その経営に深刻な影響を与え、まさに大災害となっております。

このような情勢の中で、昨年七月二十七日、漁獲不振や魚価安等、将来的に安定した漁業経営の障害となっている現状の諸問題を認識し、漁業者の意識の向上・高揚を図ることを目的に、二〇〇九甕れ協同組合運動「青森県漁民大会」を開催、「漁業金融」と「資源管理」を大会決議

の最重要事項に掲げ、この苦しい状況を打開し、漁業経営の維持・安定と浜の再生・活性化の実現のため、青森県漁民の総意として決議したところであります。

また、十月三十日、全漁連主催の「JF全国代表者集会」が開催され、この中で、JFグループの役割・存在意義をあらためて組合員・役員で再認識するとともに、JFグループの将来ビジョンを示し、今後漁業・漁村の中核として組合員の負託に応え、水産物の安定供給、地域の活性化等社会に貢献していくため、二〇一〇年度から十四年度までの五年間の「JFグループ組織・経営・事業戦略」について、大会決議がされております。

このような中で、一昨年十二月に発足した「東北地区漁業漁協対策協議会」において、金融のグローバル化により、浜の金融が硬直し漁業に重大な支障をきたしていることから、中小漁業者等への資金調達の円滑化を図るため、国等に

積極的な要請活動を行った結果、国の追加経済対策事業の一環として、一千二百億円の「漁業緊急保証対策事業」が創設されたところであります。骨子は一千二百五十万円までは無担保・無保証とし、保証料も軽減化され、利用者にとり画期的なものとなっております。この事業を積極的に活用され、漁業漁村の活性化に繋げて頂きたいと考えております。

本連合会は、昭和二十四年の水産業協同組合法施行以来、昨年九月で創立六十周年を迎え、十月二十六日に水産ビルで記念式典を開催致しました。

ここに還暦を迎え漁協の組織づくり、そして漁業資源の維持と生産基盤づくりのため、先人達のご苦労、ご尽力されたことに敬意を表するとともに、会員はじめ関係各位のご協力に重ねて感謝とお礼を申し上げます。

今後とも、様々な漁業問題の解決のため、系統が一致団結し邁進すべきときであり、あらためて皆様のご理解とご協力を申し上げる次第であります。新年も共に頑張りましょう。

終わりに、皆様の一層のご活躍と、ご健康、海上安全を心より祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。



青森県農林水産部

水産局長 坪田 哲

新年おめでとうございます。

本県水産業の振興にご尽力いただきありがとうございます。皆様にご挨拶を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、一月の陸奥湾のマダラの豊漁に始まり、春には例年になくホタテガイの成長が良好となり、夏以降スルメイカ漁獲量が回復の兆しをみせたことや、十月三十一日に開催された第二十九回全国豊かな海づくり大会において、尻屋漁業研究会が最高賞である大会・会長賞を受賞するという明るい話題もございました。一方九月以降には、平成十七年以来となる大型クラゲの大量出現が本県のみならず全国的に大きな問題となりました。

大型クラゲは、本県沿岸では例年より早い出現となり、その後、長期間にわたり沿岸に出現を続け、漁業被害が相次ぎました。全国的にみても、太平洋側の三重県にまでも出現が確認されるという事態となりました。東シナ海・黄海で発生したクラゲが、本県沿岸に到達するころには傘径が1m以上と大型化し、本県のサケ漁と時期的に重なり、大きな漁業被害を与えています。未だ効果的な対策が見いだせない状況にあります。県では、大型クラゲの発生原因の早期究明と発生海域での抜本的な対策の検討や、

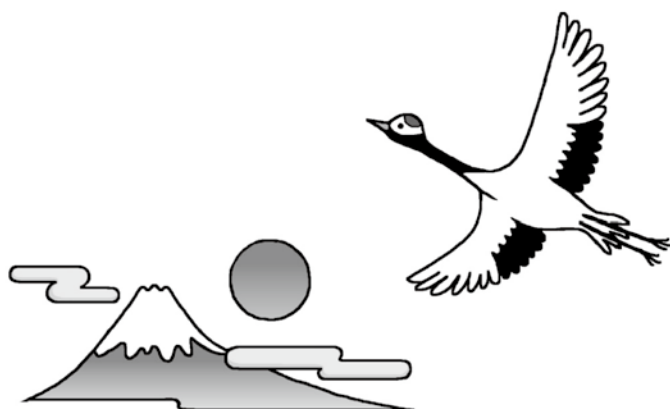
西日本海域での早期駆除の実施等を国に要望するとともに、関係機関と連携しながら、より良い改良漁具の情報提供にも努めて参ります。

さて、昨年のトピックスとしても一つ、ホタテガイ適正養殖可能数量制度(TASC)の導入があります。ホタテガイ産業は本県水産業の基幹の一つであり、ホタテガイ産業の安定持続を図るための日本でも初の試みとあつて、試行年となった昨年はご苦労も多かったと思われます。今年には本格導入の年となりますが、当制度を実効あるものとするため、関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年十二月には、いよいよ東北新幹線が全線開業となります。これにより交流人口が飛躍的に拡大され、本県の地域社会発展のきっかけとなることが期待されます。本県には、ヒラメ、ホタテを始めとして、イカ、マグロ、サバ、シジミ等全国でもトップクラスの県産水産物が多数あります。青森を訪れる観光客にこれらの優れた美味しい水産物を提供し、さらなる知名度を得る千載一遇の好機です。県では従来より取り組んでいる「攻めの農林水産業」の一層の推進を図り、水産業に携わる皆様と一体となつて本県の水産業を盛り上げ、更なる発展を目指す

所存です。

最後になりましたが、皆様の御健勝と御繁栄を心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。





青森県信用漁業協同組合連合会

代表理事会長 西崎義三

新年明けましておめでとうございます。
平成二十二年の新春を迎えまして、漁業者の皆様方、JFマリンバンク青森県信漁連をご利用いただいている皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、世界経済不況の中で日本、米国共に政権が交代し、一月には米国でオバマ大統領が就任、九月には日本で鳩山内閣が誕生致しました。両国共、新政権において厳しい経済環境であり、建て直しには困難も予想されますが、回復に向け導けることを期待しています。

また、四月にはメキシコでの流行が認知された後、世界的に流行した新型インフルエンザが日本でも猛威をふるい、秋口以降は青森県内でも教育機関等で混乱をきたしている状況にあり、改めて常日頃健康管理が慣用であると感じています。

漁業に目を向けますと、世界経済不況の煽りを受け、日本全体がデフレ傾向にあり、より一層魚価安に拍車をかけているものと思慮いたします。

また、近年は出現当初に比べニュースに取上げられなくなりましたが、昨年来の大型クラゲ

の来遊は過去に類を見ない量となっており、本県漁業に多大なる被害を与え、未だ衰える気配がありません。これらの経緯から、施設の損壊、漁獲量の減少等により、漁業経営に深刻な影響を与えております。このことから我々系統団体一丸となり、大型クラゲによる漁業被害対策を講ずることが急務と考えます。

また、昨年はこのように厳しい漁業環境を少しでも改善するために、東北ブロックの各県漁連・信漁連・基金協会が先駆け、全漁連を中心とした関係団体が国に要請活動を行なったことにより、平成二十一年五月二十九日に一千二百億円の漁業緊急保証対策の予算が成立しました。これを踏まえ、青森県についても利子補給等の予算措置を要請したところ、九月議会におきまして十二億五千万円の予算成立となりました。

今般の漁業緊急保証対策事業発足につきましては、ご尽力下さいました関係者の方々に深く感謝申し上げます。当連合会では、この漁業緊急保証対策事業を推進する上で、少しでも漁業者の方々のお役に立てるよう円滑な融資の事務処理に努めますので、ご利用の程宜しくお願い申し上げます。

さて、当連合会の経営状況でございますが、

本年度通常総会でご承認いただきました中期経営計画を基に運営しているところでありますが、平成二十一年九月末で貯金残高五二億九千六百万円、貸出金残高一二億六千九百万円、自己資本比率は一三・一二パーセントと順調に推移いたしております。これも一重に漁業者の皆様方のご支援の賜物と感謝いたしております。

また、貯金業務につきましては、系統貯金本県年度末五〇七億円達成を目標として、JFマリンバンク懸賞付定期貯金を柱に貯蓄推進を行うと共に、公共料金等の口座振替獲得件数拡充を進めていきます。貸出業務につきましては、基本項目として、各種ローンをはじめ小口資金の推進をしていきたいと考えています。年度内は漁業緊急保証対策事業資金に重点をおいて推進するよう努力してまいりますので、皆様のご利用をお待ちしています。

厳しい漁業環境ではございますが、少しでも漁業者の皆様のご期待に添えますよう役職員一同邁進努力致す所存でございますので、何卒旧のご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

結びになりますが、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、平成二十二年も相変わらぬご愛顧・ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶いたします。





青森県漁業信用基金協会

理事長 植村 正 治

新年あけましておめでとうございます。

平成二十二年の輝かしい新年を会員の皆様とお迎えすることができましたことを大変うれしく思います。

また、日ごろ当協会の業務につきまして、県、市町村、関係機関より格別の御指導、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、最近の漁業を取り巻く情勢は、沿岸水域の資源量の減少、輸入水産物の増大に伴う魚価安等により年々厳しさを増しており、特に昨年は、大型クラゲの大量発生に伴い、漁獲量の減少や漁具の損傷等により多大な漁業被害が発生

生し、漁業経営は極めて困難な事態に直面しております。

このような時こそ、漁協並びに漁業者の皆様そして私ども「系統団体」が一丸となり、その役割を発揮することが必要であり、当協会といえども、関係機関と連携し積極的な保証対応に努め、生活資金を主体とした沿岸漁業推進関連資金（県漁連・信漁連・協会三者で創設）並びに本協会独自の新たな保証対応の一環として、極度貸付根保証を実施し、中小漁業者等の事業運営の円滑化と利便性を図るとともに、漁業と漁協の再生・健全化とこれら漁業問題へ東

北地区の県漁連、県漁協、県信漁連並びに基金協会が一体的に取り組むため設立された『東北地区漁業漁協対策協議会』において、漁業金融の円滑化に向けて政府等に積極的な要請活動を行ったところ、国の追加経済対策の一環として事業規模一千二百億円の「漁業緊急保証対策事業」が創設され、その骨子は、一定額までは無担保・無保証人の上、保証料も軽減された画期的なものとなっております。当協会では、浜の強い要請を受け、数度にわたる漁協組合長会議等の説明会を経て、全国の基金協会に先駆けて対応し、現在に続いているものであり、今後も引き続き関係機関と密接に連携し浜の活性化のため、積極的に推進して参りますので、皆様の御協力、御支援を賜りますようお願いいたします。終りに、皆様のますますの御繁栄と御健勝をお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



青森県漁船保険組合

組合長理事 福島 哲 男

新年明けましておめでとうございます。

平成二十二年の新春を迎え、組合員、水産関係団体、漁業協同組合の役職員の皆様に心から

新春のお慶びを申し上げます。

平成二十一年を振り返って見ますと、漁業界は、燃油高騰が落ち着きを見せたといえ、な

お依然として厳しい状況が続いております。漁船保険組合においても、水揚げの減少、魚価安、後継者不足等の問題から、加入漁船の減少に歯止めが掛からず、また加入漁船の高船齢、高機齢化が進み、今後は経年損耗に起因した事故の発生が危惧され、これに伴い支払も増加するものと予測されております。

このような厳しい状況の中ではありますが、漁船保険組合は昨年四月、前年に続き漁船船主責任保険の保険料率の引下げ及び保険てん補の

拡大を行いました。保険料率の引下げは「新責任制限法」の施行による責任制限額の引上げに伴い加入条件を整える意味もあり、またてん補の拡大は、本県の事例を含む近年続発する大型海難に即応したものであります。このほか特殊保険・給与保険の保険料率についても大幅な引

下げを行いました。

漁業界を取り巻く環境は依然として厳しいものがありますが、漁船保険組合は今後とも組合員各位、関係機関各位の協力を得て、漁船保険の使命である「漁家経営の安定に資する」の目的を達成するため、保険金の早期支払、未加入

漁船の加入促進、事故防止事業の充実等事業の推進を図って参ります。

終りになりますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



青森県漁業共済組合

組合長理事 三津谷 廣 明

新しい「ぎよさい」制度のもと、さらなる加入の広がりを

青森県の漁村の皆様、明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様の本年のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年は、世界的な金融危機から続く不況がいまだ経済を覆うなか、引き続き水産資源の悪化、魚価の低迷に加え、大型クラゲの大量来襲等の異常な自然災害の多発により、本県の漁業は依然として厳しい環境に直面しております。

このような状況のもと、漁業経営のセーフティネットとしてその重要性をより一層増している「ぎよさい」の加入推進につきましては、「浜

を守る!ぎよさい総加入運動」の最終年度となつた平成二十年度には関係機関等との強力な連携のもと、共済金額一三七億円と本組合発足以来の加入の普遍化を図ることができました。また、平成二十年度にスタートした「積立ふらす」は、実施初年度の実績として本県漁業者申込積立額で二億三千六百万円となり、全国でも上位の実績を確保し、また、二十一年度も実績を伸ばしているところであり、「ぎよさい」加入と併せた漁業経営安定対策として、大変重要な役割を果たしているところです。

こうした成果を上げることができましたのも、漁業に携わる皆様のご理解と関係各位のご支援ご協力の賜と重ねて御礼申し上げます。

昨年五月には、制度発足以来七度目となる漁業災害補償法の改正が行われ、十月一日より新

しい「ぎよさい」制度が開始されました。新制度は、掛金負担の少ないてん補方式の追加や新しい養殖種類の追加など、漁業者の幅広いニーズに応えるものになっております。この新しい「ぎよさい」制度を最大限に活用し、普遍的な加入を図っていくため、私も漁業共済団体は昨年四月に新たな全国運動「ステップ・アップぎよさい」を立ち上げました。本年、運動二年目を迎えるにあたりましては、漁業者の皆様に新「ぎよさい」制度をご理解の上、十分活用頂けますよう、浜回りや説明会などの普及推進活動の充実強化に組織を挙げて取り組んで参ります。

本年も、「ぎよさい総加入で浜を守る!」のスローガンのもと、「ぎよさい」が将来の漁業と漁村づくりに一層の貢献ができますよう、国、地方公共団体、漁協系統団体などと緊密な連携のもと、漁業者の皆様とともに力強く邁進する所存でございますので、皆様の変わらぬご愛顧と厚いご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



農林中央金庫青森支店

支店長 傳 勝 司

新年明けましておめでとうございます。県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体の役員の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

また、漁業・漁協を取り巻く環境が一段と厳しさを増すなか、漁協系統事業全般にわたる皆様方の日々のご努力に対しまして深く敬意を表しますとともに、私ども農林中央金庫の業務につきまして、平素より特段のご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

さて、わが国経済は、二〇〇八年秋のリーマン・ショック以降、回復の傾向も見られましたが、世界的な景気後退の傷跡はなお深く、個人消費の冷え込み、雇用情勢の悪化、デフレの顕在化等、本格的な景気回復には予断を許さない状況となっております。

当県漁業環境においては、主要魚種であるほたて貝の成育が良好といった明るい材料もありましたが、魚価低迷に加え、昨年から大型クラゲの来遊が定置網漁等に甚大な被害をもたらすなど、漁業者の所得減少のみならず漁業経営意欲の減退が憂慮されます。

このような状況のなか、当県では昨年四月に、「甦れ!!協同組合運動」を旗印に、漁業・漁村の絆を強め、強い協同組合組織を再生し、浜に

活力を与え、漁業の発展に資することを目的として青森県新漁業協同組合運動協議会が設立され、七月には青森県漁民大会が開催されました。このような活動が、全国屈指の水産県である青森県の漁業関係者の皆様の原動力となり、県内漁業ならびに漁協系統のますますの発展に繋がることをご期待申し上げます。

また、昨年五月に政府が打ち出した漁業緊急保証対策につきましては、浜の金融の円滑化にとって大きな支援策となり、全国の漁業者にとつて厳しい漁業環境を乗り切る助けとなっております。本対策は当県漁協系統の皆様の活動が実を結んだものであり、改めてそのご功績に対して深く敬意を表する次第です。

さて、JFグループにおきましては、昨年十月に開催されましたJF全国代表者集会において、二〇一〇年度を初年度とする五カ年のJFグループの新運動方針である「JFグループ組織・経営・事業戦略（二〇一〇～二〇一四年度）」が決議されました。本方針では、経営環境や組合員・社会のニーズの変化に対応した協同組織のあり方を再認識するとともに、将来ビジョンを描くなかで必要とされる組織・経営・事業の改革を求めていくこととしております。信用事

業におきましては、あんしん体制（信用事業安定運営責任体制）の確立により経営の健全性を維持し、組合員に対してより良い金融サービスを提供することを目指して取り組んでいく必要があります。当県においては、信漁連を中心としたあんしん体制が構築されておりますが、引き続き、組合員の負託に応え、浜の金融を守るうえで必要な更なる信用事業の運営強化に取り組んでまいりますようお願い申し上げます。

私ども農林中央金庫といたしましても、県内漁業、漁協系統の発展のため皆様方と連携し、微力ながらお手伝いさせていただく所存であります。また、私どもの経営安定化計画につきましては、その完遂を目指して役員一丸となつて取り組んでおりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年の豊漁と、県下漁協組合員の皆様ならびに漁協系統団体職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



平成二十二年全国系統団体年頭ごあいさつ



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 服部 郁弘

新年明けましておめでとうございます。

漁業者の皆様並びにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

わが国漁業・JFグループを取りまく環境は、国内外の経済・社会情勢がめまぐるしく変化中、資源の減少、漁業者・漁船の二重の高齢化進行による生産構造の脆弱化や燃油価格の再上昇など今後も厳しい状況が予測されます。

我々JFグループは、昨年十月に開催した「JF全国代表者集会」において、今後取り組むべき五年間の新運動方針「JFグループ組織・経営・事業戦略」を採択しました。

二〇一〇年は、運動期間の初年度となりますが、本運動方針の重点取組事項は①組織・事業再編と人づくり、②経営改革に向けた取り組み、③事業改革に向けた取り組み、④協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献の四点を掲げ、基本的な考え方に「JFの原点への立ち返り」を置き、JFグループの組織・事業の将来方向

を決する新たな方針として不退転の決意で諸改革に取り組むことを決定したものです。

昨年は、政権交代という歴史的な転換期の中で、政策決定の場においても新しい価値観・手法によるシステムが構築される場面がありました。しかし、国民が我々JFという協同組織に期待するものは、安全・安心な水産物の安定的供給をはじめ、漁村振興や環境・生態系保全への取り組みなどをはじめとした多面的機能の発揮など、JFグループが本来、基本として取り組んできたものです。我々は、この重要な使命を再認識しながら自らの改革に取り組んでいく必要があります。

しかし、このような役割を果たし食料供給の担い手の育成・確保を図っていくためには、まず安心して漁業を営むことが出来なければなりません。「漁業共済」や「積立ふらす」の拡充による漁業収入の安定、コストの太宗をしめる燃油・飼料の高騰に対するセーフティネット措

置の創設による漁業所得政策の確立などが重要な課題です。

一方、産地市場の価格形成力を向上させ、漁業者の手取りアップを目指すためには、魚食の推進や地産地消における新たな消費者層の開拓などにJFグループが強力に取り組んでいくとともに漁業者自らの取り組みへの参加も必要だと思えます。

JF全漁連としましては、我々JFグループの改革への取り組みや必要な政策の実現に向けて広く国民への理解を深めていくことが重要であり、このような取り組みのもとで現在水産業が置かれている厳しい状況を踏まえ、漁業者及びJFグループの声を反映した漁業経営の安定につながる仕組みが一刻も早く構築されるよう一層の努力を重ねていく所存です。この一年の操業の安全、皆様方のご繁栄とご健康を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。





全国共済水産業協同組合連合会

代表理事会長 吉岡修一

暮らしの保障に

万全を期する

新年あけましておめでとうございます。皆様方には日頃からJF共済事業にご理解とご尽力を賜り心より感謝申し上げます。年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。先ず始めに、昨年続発いたしました海難事故により遭難された方々、ご関係者各位、また大型台風や集中豪雨等の自然災害により被災された皆さまに心からのお悔みとお見舞いを申し上げます。今後、海難事故、自然災害が起こらないよう願って止みません。

さて、わが国経済は、一部に明るい兆しが見えていますが、雇用情勢の悪化や消費の腰折れ、地域経済への資金繰り等、いまだ厳しい状況が続いています。生損保業界にあつては市場縮小に景気低迷が追い打ちをかけ、売上高を示す保険料収入を見ると生保では銀行窓販が全体を押し上げ増収となったものの、損保では二年連続で前年を下回る状況になっています。一方、漁業・漁村においては、水産資源や就業者数の減少、魚価の低迷等の構造的な問題に加え、昨今の資源・原材料価格の乱高下、そして金融危機

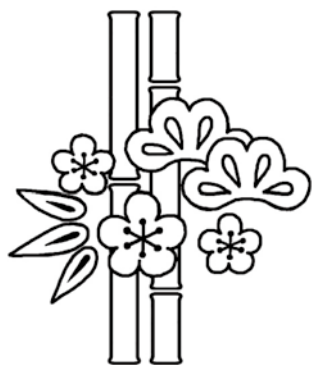
に端を発する世界的な景気悪化などの影響を受け、さらに厳しさを増しています。

このため、昨年の十月に開催されたJF全国代表者集会では、今後もJFが組合員の負託に応えるとともに、漁業・漁村の中核として、また、我が国における水産物の安定供給の唯一の担い手として社会に貢献していくため「JFグループ組織・経営・事業戦略（二〇一〇～二〇一四年度）」を決議し、同内容の実践に不退転の決意で取り組むこととなりました。

この中で、JF共済においては計画達成に向けた目標管理を徹底し、共済事業寄与率の向上の実践を通じて共済事業量を確保するとともに、保険法等法制対応のための措置や「お客様相談窓口」機能の充実による共済契約者保護の強化、また、新情報システム「まありんねっと」活用による「提案型推進」の促進、組合員全戸推進の展開を通じた共済事業実施体制（基盤）の強化に継続して取り組んでまいります。一方、JF共水連としては共済事業を安定的に運営するために純資産・自己資本の充実をはかり、マネジメント改革の推進やコンプライアンス・リスク管理態勢の整備・強化を含め、万全の態勢で臨んでまいります。

二十一年度は「海といっしょに。浜といっしょに。―JF共済三か年計画」の中間年度として重要な年度であり、当計画に掲げた活動基本方針を柱とし、当面の重要課題を踏まえつつ、その具体的施策に取り組むこととし、残る僅かな期間ではありますが、引き続き、各県の推進本部を軸とする漁協活動とJF共水連の緊密な連携のもと、いっそうの運動の強化によつて所期の目標達成に向け、総力結集の歩みを続けてまいります。

どうか本年におきましても、JF共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜りますよう、切にお願いを申し上げます。次第でございます。最後になりましたが、わが国漁業の明るい未来とJFグループがますます発展することをお願いいたしますとともに、皆様方のますますのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。



青森県漁連創立六十周年記念行事開催

去る十月二十六日、青森県水産ビルにおいて、青森県漁連創立六十周年の記念行事が開催された。

水産ビル正面では、水産関係代表者により「創立六十周年記念碑安全祈願式及び除幕式」が行われた。この記念碑は、この場を「協同組合運動の発信地」とし、さらに団結と継続を深めるとともに、水産七団体が一層強い絆の下で行動するため建立された。

また、七階大会議室で行われた「記念式典」には、国会議員、中央関係団体、青森県、水産団体、会員漁協、関係業者約一五〇名が出席し、盛大に青森県漁連の新たな船出を祝った。

式典のオープニングでは、龍神太鼓保存会による海上安全、大漁を祈願した祝太鼓が披露され、漁業関係物故者に黙祷を捧げたあと、植村正治会長が「昭和二十四年六月、GHQ管理のもとで水産業協同組合法の施行がなされ、浜には各々漁業協同組合が誕生。その連合会として同年九月二十六日、青森県漁業協同組合連合会が発足する事となり六十年。還暦の年を迎える事になりました。戦後の危機的食糧難に対処しながら、民主的な浜の漁協組織づくりを行い、零細漁業と云われ困難を克服し、沿岸資源の維持と生産の基盤づくりに、先人達が大変御苦労、御尽力されたことに敬意を表するとともに、会

員はもとより関係各位のご協力の御陰様と存じ上げ、重ねてお礼と感謝を申し上げます。六十年の青森県漁連の歴史においては、幾多の問題が惹起し、その都度、対策に追われたものでありますが、中でもつくり育てる漁業のチャンピオンとして、県も大きな期待をするうちに、早くも昭和四十九年に起きた養殖ホタテの大量斃死への対策、更には、麻の如くに乱れた原子力船問題対策は、ほぼ十年を経過して関根浜に母港移転を成し遂げ、又、就任後発覚した県漁連本体の不良化債権五億円余の解消対策、ホタテの貝毒問題や大量生産期に於ける流通対策、加えて五十三年、突然国際問題化した、二百海里時代への対策等が立て続けに求められる等、課題山積波瀾万丈の歳月でありましたが、お陰様で遅れておりました県内の漁港漁場づくりのため、国会議員や県知事等のお力添いもあり、今日では全国有数の基盤整備県となりました。今後とも、政・官・民一体となつて浜の組織の健全な発展のため、関係各位に御理解ある御協力をお願い致します」と挨拶を述べた。

また、来賓を代表して、三村申吾青森県知事（青山祐治副知事代読）、田中順造青森県議長（岡元行人農林水産委員長代読）、木村稔東北地区漁業漁協対策協議会代表が祝辞を述べた。

六十周年記念表彰では、「甦れ!!協同組合運

動」をスローガンに、資源有限・漁業無限を実践する協同組合運動の先頭に立ち、水産先進県・青森をリードしてきた、植村正治県漁連会長と西崎義三県漁連副会長に青森県知事より特別功労者として表彰状が贈られた。また、青森県漁連会長表彰の贈呈は、優良組合として、総合功績組合が十一会員漁協、販売功績組合では二十会員漁協・支所が紹介され、総合功績組合として平内町漁協、販売功績組合として白糠漁協が代表となり表彰状が贈られた。功労役職員の部では、漁協組合長代表として、森長保組合長（深浦漁協）他十一名、漁協役員代表として、黄金崎欽一監事（新深浦町漁協）他三名、漁協職員代表として、柳谷邦歳参事（三厩村漁協）他五名、漁連役員として、小出政明専務理事が紹介され表彰状が贈られた。功労業者の部では、功労業者代表「大魚櫛」・「成邦商事」・「東北容器工業」他三十業者紹介の後、代表三社に感謝状が贈られた。

表彰後、吉田博身全漁連常務理事の乾杯の音頭により祝宴に移り、三津谷廣明県漁連理事の万歳三唱で滞りなく終了した。

あおり漁連



式典オープニング祝太鼓



記念碑除幕式



総合功績組合表彰（平内町漁協）



植村会長挨拶

【記念碑紹介】

石の素材は黒御影石

高さ 2 m

幅 1.72 m

厚さ 40 cm

重さ 4トン

右上は本県の豊かな自然「山と海」が描かれております。

海四面には本県を代表する魚介類を、「団結継続」の文字は植村会長・自筆の文字で刻んでおります。

裏面には漁業界が大変厳しい中で植村会長が提言しております「甦れ 協同組合運動」そして「資源有限 漁業無限」を標語として掲げ、その下には建立の主旨と県漁連役職員及び関係水産団体の名前を刻んでおります。



青森県漁連60周年記念碑

平成
21
年度

青森県豊かな海づくり大会 開催

去る十月二十六日(月)、青森県水産ビルにおいて、水産資源の回復と森林及び漁場環境の保全等を推進する目的で、「平成二十一年度青森県豊かな海づくり大会」が、県内漁協や水産関係団体、県議会議員、沿岸市町村長ら約百五十人の参加を仰ぎ、「まず行動 きつときれいな海になる」をキャッチフレーズに盛大に開催された。

式典では、始めに、植村正治大会実行委員会会長(青森県漁連会長)が主催者の挨拶を述べ、続いて、来賓の三村申吾青森県知事(青山祐治副知事代読)が祝辞を述べた。



植村会長



青山副知事



伊勢田啓二さん



富田玲子さん

その後、本県水産業活性化の模範となる実績を上げている一個人、一団体に対して三村知事より「青森県水産大賞」が贈られた。

表彰に続いて、青森県漁業士会の伊勢田啓二さんが「資源を守り 豊かな海へ」、また、青森県漁協女性組織協議会の富田玲子さんが「愛情一本、家族の思い」と題してそれぞれ浜の声を発表した。

最後に、大会決議(案)を西崎義三大会実行委員会副会長が朗読し、出席者の満場一致で採択された。

また、式典前には、大会実行委員、来賓、青森市内の青森第一なかよし保育園児も加わり、漁業資源の回復を願ってヒラメとキツネメバルの稚魚各千匹を陸奥湾に放流した。

○青森県水産大賞受賞

熊谷 タマエ

(新深浦町漁業協同組合大戸瀬女性部長)
大間越漁業研究会



西崎義三副会長



熊谷タマエさん



稚魚放流

大会決議（案）

漁業を取り巻く情勢が一層厳しさを増し、漁業者の経営が成り立たない状況に追い込まれている。

このような中で、本県が全国でも屈指の水産県として、今後も生き残るためには、水産資源の適切な管理やつくり育てる漁業の推進、また、これまで県が取り組んできた「攻めの農林水産業」を今まで以上に着実に実践していかなければなりません。

そして我々漁業者は、安全・安心・新鮮な水産物を将来に亘り、国民へ安定供給して行くことも重要です。

とりわけ、漁業資源の減少が問題視されている中で、資源の回復を図るため、資源の保護や幼稚仔魚の放流、そして漁場の管理・保全等、持続的な資源管理体制を構築し、資源を守り育てていく必要がある。

よって、私達は青森県の豊かな自然と水産業を後世に継承して行くため、下記のとおりここに決議する。

記

1. 山・川・海をつなぐ水循環システムの再生を図り、国民の求める安全・安心で良質な水産物の安定的な生産・供給を推進する。
2. 水産資源の回復を図り、魚価対策と水産物の持続的利用のためのルールづくりを推進する。
3. 漁業経営の維持・安定のため、ぎょさい及び融資保証・保険制度等を活用した漁業金融の円滑化を推進する。
4. 燃油価格高騰が続く中で、省エネ対策等により、効率的な漁業経営を図ることを推進する。

平成21年10月26日

平成21年度青森県豊かな海づくり大会

「JF全国代表者集会」開催

「新運動方針」を決議

十月三十日、東京都・グランドプリンスホテル赤坂において、全国漁協代表者ら約六〇〇名の参加のもと「第九回JF全国代表者集会」が開催された。

はじめに、主催者を代表して、服部郁弘JF全漁連会長が「かつてない厳しい経済・社会状況に直面している現状を乗り越えるため、JFグループ自らが将来ビジョンを掲げ、組織・経営・事業の諸改革を断行することで、漁業・漁村の活性化と国民経済の発展に貢献していきたい」と挨拶を述べた。

集会では「JFグループの組織・経営・事業戦略（二〇一〇～二〇一四年度）の新運動方針（案）」について、櫻庭武弘JF全漁連副会長が具体的な取組事項等を説明し、その後、戎本裕明明石浦漁協組合長、田中傳山口漁協組合長より意見表明がなされ、宇都鈴江JF全国女性連会長の呼びかけにより、新運動方針を満場一致で採択された。

続いて、「組織・経営・事業改革の断行と水産政策の確立」に対し、JFグループの全ての構成員が諸改革の断行に不退転の決意で取り組むことと、組合員の経済的・社会的地位の向上を図り、水産業・漁村の活性化、国民経済の発

展に寄与する「特別決議」が大井誠治JF全漁連副会長より提案され、満場の拍手により採択された。



「JFグループ 組織・経営・事業戦略に向けた新運動方針」

重点取組事項（二〇一〇～二〇一四年度）

- 一、組織・事業再編と人づくり
 - 合併計画の見直しと効率的な事業運営体制の構築のための事業再編
 - 組織を担う人材の育成
- 二、経営改革に向けた取組み
 - ガバナンス・リスク管理態勢（組織統治・危機管理態勢）の確立・強化とコンプライアンス（法令遵守）の徹底
- 三、事業改革に向けた取組み
 - 組合員の経営安定化、JFの健全経営のためのJF事業改革の断行
- 四、協同組織の強み発揮と漁業・漁村への貢献
 - 事業と運動を組み合わせた取組みの推進と他協同組織NPO（非営利団体）等との提携拡大

大型クラゲ出現・被害状況と対応・対策

一・出現・被害状況

本県での過去の大型クラゲの来襲は、平成十五年と平成十七年から十九年の三カ年連続で大きな被害がありました。

今年は、七月には大型クラゲの大発生が予測されましたが、その予想をはるかに上回る大量発生となっております。特に本県では例年と比較すると一カ月も早く、八月下旬に確認され、九月上旬には一気に大量発生となり、瞬く間に本県全域での被害となりました。過去の二倍から三倍の大量発生で大型定置網一ヶ統当たり五千個体から一万個体以上の入網する被害となっております。

大型クラゲの大量出現は、定置漁業と底建網漁業はもちろん、各種漁業者に、漁獲高の減少と漁獲物の品質低下、漁具の破損、更には駆除作業のための労力の増大など甚大な漁業被害をもたらしております。

二・対応・対策

国の事業を活用した駆除活動を実施するとともに、大型クラゲ被害把握のための現地視察を県漁連が主催し、水産庁、全漁連並びに県が同行し現地視察を実施しております。

また、関係団体と協力した資金繰りの支援策の確立と、国・県並びに系統団体に対しては経営支援対策等について要請・要望を行っております。

(一) 有害生物漁業被害防止総合対策事業による大型クラゲ洋上駆除事業の実施

① (9月14日) 青森県定置漁業協会に対する洋上駆除事業に関する説明会の開催

② (9月24日) 底建網漁業者等に対する洋上駆除事業に関する説明会の開催

(二) 大型クラゲに関する現地視察について

① (9月18日) 六ヶ所村海水・泊・白糠・尻労漁協視察

② (9月28日) 泊漁協視察

③ (10月8日) 新深浦町漁協船作支所視察

④ (11月8日) 全漁連による大型クラゲ沖合駆除及び現地定置網視察(船作崎沖)

(三) 資金繰り支援対策について

① (10月28日) 漁業緊急保証対策事業の活用による大型クラゲ被害対応資金説明会の開催

(四) 要望・要請について

○短期的対策

・有害生物漁業被害防止総合対策事業の大型クラゲ対策費の拡充

・秋漁期における不可抗力的状況による所得補完対策

○長期的対策

・沿岸漁業継続のため、雇用と担い手の確保と安定経営に向けた漁業共済加入の恒久的対策

・発生地における原因解明と駆除対策

以上の内容を国・県等の関係各署に要望・要請しております。

全漁連による大型クラゲ沖合駆除
海域に向かう植村会長外

大型クラゲ沖合駆除
作業を行う定置網漁業者



全漁連が傭船した「第七洋丸」
での大型クラゲ駆除(船作崎沖)

水産庁・全漁連との
大型クラゲ対策に関する協議

代表理事組合長 森 長 保

功績内容

中学校卒業と同時に、磯廻り漁業・一本釣漁業に従事し、昭和50年から漁船漁業の近代化を図りFRP船14トン型を建造し、イカ釣漁業を専業に、平成10年まで県内外で操業。その洗練された漁業技術は、他の漁業者の模範となり大変信頼されている。また、昭和44年監事、昭和47年に理事、平成11年には代表理事組合長に就任し、優れた指導力と統率力を発揮し、組合員の漁家安定と漁協経営の安定に尽力し現在に至っている。更に、組合員に上架施設をフルに活用させ、漁船の整備・点検を徹底させるとともに、組合員の海難事故防止と人命確保を図るため、救命胴衣の常時着用推進等に積極的に取り組んでいる。

全国漁業協同組合学校 平成22年度学生募集



全国漁業協同組合学校では、平成22年度の学生を募集しております。
入学されたい方は漁協へ相談して下さい。

1. 就業期間 1年 全寮制
2. 定 員 50人 (男女共学)
3. 入学資格 入学目的を持ち、漁業協同組合系統団体等の推薦を得て、次のいずれかに該当し、組合学校の行う選考に合格した者
 - (1) 1ヶ年以上漁業に従事し、または漁業協同組合系統団体に勤務中の者。
 - (2) 高等学校卒業者（平成22年3月末卒業見込者を含む）または、これらと同等以上の学力を有すると認められる者。

出前講座 / 深持小学校の講座内容

1. 10月13日 ミニ展示設営
2. 10月16日 出前講座
 - 9:15～ 9:20 隊員紹介・主催者挨拶
 - 9:20～ 9:35 「青森ほたて～豊かな海・おつ湾」DVD鑑賞
 - 9:35～ 9:55 ほたて漁業者の体験談
野坂ナリ子氏
 - 9:55～10:05 質問コーナー
 - 10:05～10:15 記念写真撮影
 - 10:25～10:45 耳づり体験
ウ口取り体験
 - 10:45～12:00 ほたて調理実習
ほたてカレー
ほたてバター焼き
ほたて焼き
デザート 県産りんご
県産りんごジュース
 - 12:00～12:30 昼食会
 - 12:30～12:40 教頭先生から一言
 - 12:40～13:00 300万年前の化石タカハシホタテに触れる



6月25日 平内町山口小学校3年生・5年生（漁師 後藤亮悦氏）



10月16日 平川市小和森小学校5年生（漁師 八戸翼氏）



11月13日 十和田市立深持小学校5年生（漁師 野坂ナリ子氏）

「出前講座」は、県内小学校を対象に、県産ほたての消費拡大や食育推進を目的として、青森県漁業協同組合連合会、むつ湾漁業振興会、青森県ほたて流通振興協会が主催となり開催した。

講座内容は下記（IN深持小学校参照）の通りで、午前九時から午後一時まで長時間の開催となります。対象学年は五年生主体で、社会科・家庭科等の授業時間として実施している学校が多く、山口小学校では三年生も授業に参加しました。

又、講座四日前に「ほたてに関するパネル」十五点程展示、一番人気は水槽に稚貝一〇〇枚程度放した「泳ぐほたてくん」で、子供達はパクパク泳ぐほたて貝を「空飛ぶほたてくん」と表現し楽しんでおりました。

今年度は、「平内町山口小学校」、「平川市小和森小学校」、「十和田市深持小学校」の三校で開催、子供達からは「漁師さんの頑張りがすごい」「耳づり始めて！」「ほたてカレー美味しかった」等の感想が寄せられ、来年度は七戸や五戸地区等で継続して実施したいと考えております。

笑顔がとっても素敵なお子様で、
嬉しい出会いとなりました。



子供達とほたて料理フルコース

青森ほたてキャラバン隊 出前講座開催

第三十七回「海をきれいにする運動」

入賞作品紹介

青森県漁業協同組合連合会とむつ湾漁業振興会の共催による第三十七回「海をきれいにする運動」は、むつ湾関係者のご協力により本年度の事業を無事終了することができました。

この運動は、むつ湾の資源保護や漁場環境の保全を図り、むつ湾の美しい海を後世に継承することを目的として、平成二十一年七月二十日から十月三十一日までの期間に各漁協のご協力のもと海岸清掃等が行われました。

また、この運動の一環として、むつ湾沿岸の小・中学校の生徒を対象に、海をテーマとした作品募集をしたところ、図画一〇九点、ポスター一二七点、作文三二点、標語三九四点の合計六六二点の応募があり、専門審査員による厳正な審査の結果、各部門の優秀作品が決定され、去る十二月十九日（土）青森県水産ビルにおいて表彰式を開催致しました。

この中で、図画の部の優秀作品（小学生八点）については、全漁連主催の第三十二回「全国海の子絵画展」へ出品しております。

本運動にご協力をいただきました関係者の方々に対し、厚くお礼申し上げますと共に、来年度も引き続き本運動を展開して参りますので、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、図画・ポスター・標語の入賞作品並びに作文の特選については、青森県水産ビル二階ギャラリーへ展示致しておりますので、ご来館の際は是非ご覧下さるようお願い申し上げます。

挨拶をする

植村県漁連会長



祝辞を述べる

坪田水産局長



表彰する

三津谷むつ振会長



作文を朗読する

須藤さん



主催、来賓、審査委員、受賞者

《図画の部》【小学校】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名	備 考
特 選	平内町立東田沢小学校	3	植 村 侑 史	全国出展
準特選	〃	6	笹 原 怜 珠	全国出展
〃	平内町立茂浦小学校	1	須 藤 風 沙	全国出展
佳 作	平内町立東田沢小学校	2	工 藤 恵 樹	全国出展
〃	〃	4	狩 野 暢 也	全国出展
〃	〃	6	柴 田 拓 真	全国出展
〃	青森市立野内小学校	1	今 玲 二	
〃	青森市立久栗坂小学校	6	武 田 真 司	
〃	平内町立東田沢小学校	1	植 村 泰 誠	
〃	〃	3	蝦 名 稀 麟	
〃	〃	5	田 中 風	
〃	平内町立茂浦小学校	2	須 藤 飛 雅	
〃	外ヶ浜町立平館小学校	1	木 村 優 太	

第32回全国海の子ども絵画展出品 6点

第37回
「海をきれいに
する運動」
審 査 結 果

《ポスターの部》【中学校】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	むつ市立大平中学校	2	船 橋 朱 音
準特選	〃	3	木 下 明日香
佳 作	平内町立西平内中学校	3	松 浦 あかり
〃	むつ市立田名部中学校	1	中 村 瞳
〃	〃	1	高 岡 悠 磨
〃	〃	2	山 上 千 晴
〃	〃	2	中 野 みさき
〃	むつ市立大平中学校	1	高 橋 勇 大
〃	〃	2	中 村 祐 太
〃	〃	2	成 田 栄 樹
〃	〃	3	山 本 小 町
〃	〃	3	宮 野 素 雅
〃	〃	3	大久保 美 穂
〃	〃	3	今 有 瑳

《ポスターの部》【小学校】

賞 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	青森市立沖館小学校	6	林 克 也
準特選	むつ市立奥内小学校	1	二本柳 伶 音
〃	むつ市立脇野沢小学校	2	山 本 樹 来
佳 作	青森市立油川小学校	4	大 賀 千 聡
〃	〃	5	菊 池 遥 爽
〃	青森市立沖館小学校	6	田 中 翔 子
〃	〃	6	三 浦 悠 生
〃	平内町立小湊小学校	6	八 桁 友 海
〃	〃	6	工 藤 あすか
〃	〃	6	濱 中 未 来
〃	野辺地町立野辺地小学	3	四 戸 啓 介
〃	むつ市立第二田名部小	5	三 井 愛 美
〃	むつ市立奥内小学校	6	雫 石 貴 暉

《作文の部》

賞 名	題 名	学 校 名	学年	氏 名
特 選	みんなの手で守ろう	平内町立西平内中学校	2	須 藤 真 実
準特選	海のため 地球のために	むつ市立脇野沢中学校	1	東 谷 真 央
佳 作	海のゴミを拾おう	〃	2	山 本 紗 花
〃	海のごみについて	〃	2	渡 部 彪 麻
〃	今の状況	〃	2	東 谷 拓 門
〃	よごれた海	〃	1	櫛 引 千 種
〃	大きくなったら	外ヶ浜町立平館小学校	2	木 村 優 心

《標語の部》

賞 名	標 語	学 校 名	学年	氏 名
特 選	聞こえたよ ポイ捨てやめと 海の声	外ヶ浜町立蟹田小学校	6	内 村 瑠 香
準特選	この海を みんなの知恵で 守りたい	むつ市立脇野沢中学校	1	立 石 伊 吹
〃	きれいな海 きれいな魚 きれいな心	平内町立東田沢小学校	2	笹 原 楓
佳 作	守りぬこう ひかるむつ湾 宝の海	むつ市立大平小学校	6	太 田 大 河
〃	この海を 子供に残そう いつまでも	むつ市立川内中学校	2	大 室 海 波
〃	青い海 守る役目は 私たち	外ヶ浜町立蟹田中学校	3	五十嵐 花 純
〃	海のゴミ 捨てる拾うも 僕らの手	平内町立西平内中学校	2	木 村 祐 太
〃	見て知ろう 地域の海の 真実を	むつ市立脇野沢中学校	1	宇 野 千 澄

第三十七回「海をきれいにする運動」

作文の部 特選 『みんなの手で守ろう』

平内町立西平内中学校 二年 須藤 真実

海を見るたびに、思い出すことがあります。それは、二年前の環境保全活動に参加したときのことです。

私の住む平内町の茂浦の海に、市内の小学生と一緒に、アマモを植えて繁殖させようという活動があり、当時の小学校六年生だった私も参加したのでした。

活動は、ゴミ拾いから始まりました。といっても海岸ではなく、海底のゴミ拾いです。ウェットスーツを着て、ブーツの上にフィンをつけ、手袋をはめての本格的なものでした。

最初は浅い所からスタートしました。

流れついたと思われるお菓子の袋、ペットボトル、トレイなどが、予想以上に多くありました。浅瀬には、小さなカニや魚がいるので、危ないし、有害だなあと思いました。何より、こんな汚染された海に生物がいると思うと、ぞつとしました。

次に深い所へ移動してみました。

浅瀬に比べればきれいだろうと考えていました。しかし、すぐに考えが甘かったことに気づ

かされました。私が目にしたものは、何年、何十年もの間、拾われることのなかったゴミでした。

海上保安員の方の話を聞いて、さらに驚いたのは、そのゴミが、漁師の人たちが使っているロープや網だということでした。ショックでした。海と毎日向き合ってきた漁師さんたちが、無意識のうちに、海を汚していたなんて、信じがたい話だったからです。

ほんの少しのつもりが蓄積されて、今や海の生態系が狂い始めていることに、私たちは気づいていなかったのです。

私の祖父母と父も漁師です。一日の大半を海の上で過ごしています。目に映った光景は、決してひと事ではない、そう感じさせられました。気を取り直し、最後の活動に取り組みました。アマモを植える作業です。

アマモは海をきれいにしてくれるうえに、カニやウニ、ナマコやホタテの稚貝を発生させるのに、抜群の効果があると、その時初めて知りました。

今よりも、もっと多くの魚たちが、この茂浦の海に生息するといいなあ、と願いを込めながら、できるだけいいねいにやってみました。

ところが、倒れないように、真つすぐ植えるのは至難の業で、何度もやり直しました。しかも、ウェットスーツを着ていても、海中はとても寒く、すぐに体力を消耗してしまいます。

作業を通して初めて、漁師の人たちの苦労がわかりました。

二年前、あの活動に参加してよかったと思います。「海をきれいにしよう」と、よびかけているのは知っていても、海の実態を知っている人は少ないと思うからです。

私たち人間が、どれだけ海から恩恵を受けているか、そして、それなのにどれだけ海に害をもたらししているかを、まず知ることから始めなければなりません。

どんなに広大に見える海も、無限ではありません。ゴミを洗い流したり、包みこんだりできないのです。自分の周りが汚れていたらきれいにするように、みんなのものだからみんなできれいにしていかなければならないのです。

私は、ホタテの町、平内の海が好きです。毎日目にする茂浦の海が大好きです。

海は命ある生き物だということを忘れずに、みんなでむつ湾を大切にし、たくさん魚たちが生育できる環境に戻していきたいです。

第37回「海をきれいにする運動」 入賞作品

聞こえたよ。ポイ捨てやめると海の声

標語の部 特選 外ヶ浜立蟹田小 六年 内村 瑠香



図画の部小学校 特選

平内町立東田沢小学校3年 植村 侑史



ポスターの部中学校 特選

むつ市立大平中学校2年 船橋 朱音



ポスターの部中学校 特選

青森市立沖館小学校6年 林 克也

水産に関する主な動き（8月～12月）

8 月	事 項	場 所
3日(月)～4日(火)	本会監事会、監査会	青 森 市
5日(水)	2009 甞れ!! 協同組合運動「青森県漁民大会」に関する要請	青 森 市
10日(月)	青森県太平洋沖における沖合底曳網漁船と小型いか釣漁船の安全操業の確保に関する話し合い	八 戸 市
11日(火)	全国漁連・信漁連会長会議	東 京 都
25日(火)	青森県太平洋沖における沖合底曳網と小型いか釣漁船の安全操業に関する漁労長会議	三 沢 市
31日(月)	八雲町漁協とのぼたて生産協議会	青 森 市

9 月	事 項	場 所
3日(木)	青森県漁業共済組合臨時総会	青 森 市
4日(金)	本会理事会、本会業務部担当理事会	青 森 市
6日(日)	青森県市場食育祭	青 森 市
10日(木)～11日(金)	東北地区漁業漁協対策協議会	盛 岡 市
12日(土)	漁船海難防止東通村地区大会及び野牛救難所開所式	東 通 村
18日(金)	大型クラゲ現地視察	六ヶ所村、東通村
20日(日)	ぼたての祭典2009	平 内 町
24日(木)	大型クラゲ洋上駆除事業に係る説明会	青 森 市
28日(月)	大型クラゲ現地視察	六 ヶ 所 村

10 月	事 項	場 所
1日(木)～2日(金)	2009年決算税務研修会	東 京 都
8日(木)	大型クラゲ現地視察	深 浦 町
9日(金)	青森県漁協系統販売担当者・駐在職員会議	青 森 市
19日(月)	本会正副会長会議	青 森 市
23日(金)	青森県漁協系統購買職員担当者研修会	青 森 市
26日(月)	本会60周年記念式典	青 森 市
26日(月)	青森県豊かな海づくり大会	青 森 市
27日(火)～29日(木)	本会監事会・監査会	青 森 市
30日(金)	JF全国代表者集会	東 京 都
31日(土)	全国豊かな海づくり大会	東 京 都

11 月	事 項	場 所
8日(日)	大型クラゲ洋上駆除活動視察	深 浦 町
12日(木)	青森県東部海域漁業協議会通常総会	青 森 市
13日(金)	青森県「攻めの農林水産業」推進大会	青 森 市
17日(火)	大型クラゲ対策全国会議	東 京 都
21日(土)	本会労働組合50周年記念式典	青 森 市
25日(水)	日本海地区、おつ湾地区漁業者協議会	鰺ヶ沢町、青森市
27日(金)	下北・太平洋地区漁業者協議会	お つ 市

12 月	事 項	場 所
1日(月)	2009年度決算実務研修会、省燃油実証事業に係る決算手続説明会	青 森 市
4日(金)	青森県漁業士認定委員会	青 森 市
16日(水)	系統団体情報交換会	青 森 市
19日(土)	第37回「海をきれいにする運動」優秀作品表彰式	青 森 市